

NPO法人等と意見交換概要について(報告)

筑波研究学園都市交流協議会事務局

■ 筑波山地域ジオパーク協議会(任意団体)(平成30年4月16日)

- ・筑協の会員参加について、協議会同士で負担金を出し合うこととなるため適当ではない。
- ・ジオパーク協議会は、日本ジオパークネットワークから研究機関との連携を求められている。このため、両協議会間で提携の協定を結ぶような関係があれば、研究機関の情報をもらいつつ、イベントでの連携協力が円滑に進むことが考えられる。
- ・ジオパーク協議会に協力して頂いている研究所とは、研究者から施設内で展示しているものを利用して地形を教えてもらうなどの協力を得ているところ。
- ・筑協と連携としては、講演会開催時に一般市民向けに研究者などに話してもらうことや、サイエンスQの出前授業への参加が考えられる。これを通じて、筑協の会員機関にジオパークを知ってもらえる機会として期待したい。
- ・筑協との連携に期待するのは、つくば市の問題でもあるが、地元の人たちが科学技術の恩恵を感じていない。これは、市民などに科学技術の恩恵を伝えるインタープリター(仲介)をできる橋渡し人材がない。ここに対して、研究所に期待したい。

■ 特定NPO法人NPOプラザ・ねこねっと(平成30年4月20日)

- ・筑協は産学官で成り立っていて、会員であったときには、市民(団体)として委員会にも入っていけず意見は総会のみであった。また、NPOは他の支援の資金に経費を充てざるを得ず、会費を減免してもらっていたから会員でいられたが、苦渋の決断で退会した。
- ・企業との産学連携は経営前提があるように感じ、研究開発や課題を解決することから地域を良くしていくことが基本理念にあれば、関係者の連携や地域の活性化に繋がるのではないかと考えている。この理念であれば、市民が社会に還元される段階でも良いものであるかなど協力できるのではないか。つまり、地域の中で課題があって、これを解決すれば便利になるのではないかというコンセプトでの研究開発が大切で、各段階で市民は関わっていける。例えば、障害者や高齢化社会での移動手段など。
- ・一方で、筑波地区では、市民であっても、元々研究者の方もいて、かなりの活動の下支えをしている。

- ・無理のない会費で、入会後に市民のニーズを研究シーズに繋げるような役割があれば積極的に協力したいが、筑協との交流関係の継続だけでもネットワークとして重要であった。実のところ賛助会員より外で、筑協から意見を聞かれるオブザーバなどでの提携の方がなじむと考えており、規約にも位置づけられ協力できる関係が構築できれば尽力してまいりたい。

■ 特定NPO法人NEWSつくば(平成30年5月10日)

- ・筑協の会員参加について、寄付を基本としてネット記事に広告を載せるなどの収入で運営し、記事の執筆への支出が主であるため、会員になることは厳しい。会費無しで別の位置づけがあれば、日常の活動として協力は可能である。
- ・記事は茨城県南(つくば、土浦)を中心に、地域住民の興味がある行政の記事やイベント等の暮らしの記事を毎日3件程度と、コラムを弁護士、エコノミスト、医者、カウンセラー、写真家、芸術家、図書館長など様々な関心分野で発信している。一方で、ホームページは組織のことだけを発信するが、ニュースメディアは客観性・信頼性をもっていて位置づけが違う。あくまでも報道としてのニュースを全国に発信している。また、ネットニュースは、記事や写真に制限がないため、記者経験者が参加しているNEWつくばでは記者が発信をしたがっている。
- ・筑協で主催するイベント取材して記事にし、ニュースサイトに掲載するのが一番良い連携であると思う。常にイベント情報などを集めているため、筑協のイベント情報などを事前に共有して欲しい。ラジオつくばとも提携しているため、この記事は放送にも使える。
- ・筑協とは、地域や科学技術の振興についてプロジェクトなどが共にできれば嬉しく思う。